

日本共産党杉並区議会議員

週刊

# こんにちは 山田耕平 です

2021.4.8 No.406

このニュースへのご感想  
ご意見をお寄せください!

杉並区善福寺 2-2-1 1

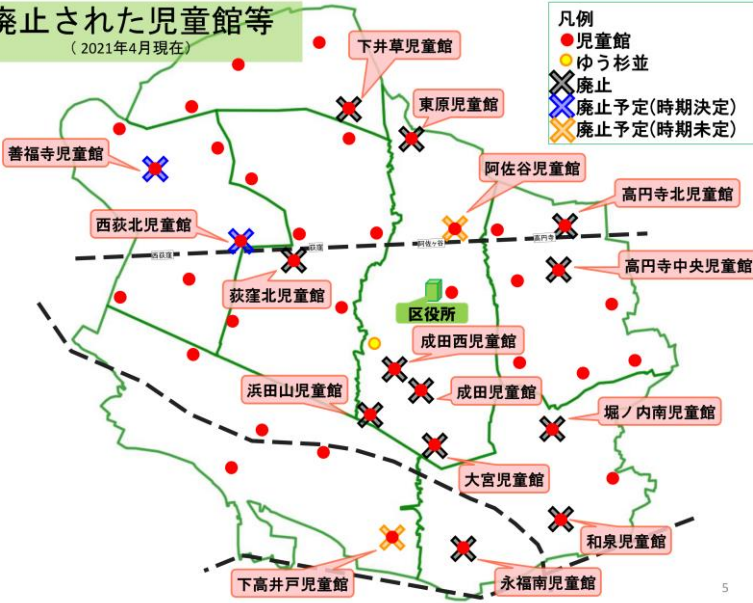
TEL 090-9973-0941

ホームページ

http://yamadakohei.jp

## 児童館の全館廃止方針は中止を！ 子ども達の居場所「児童館」を守ろう！

### 廃止された児童館等 (2021年4月現在)



※4月3日児童館廃止問題を考える学習会で使用したスライド  
杉並区の東側では、多くの児童館が廃止された。区立施設再編整備計画の見直しでは、西側の児童館が廃止される見通し。

昨年末、西荻北児童館と善福寺児童館の2館の廃止方針が発表され、住民説明会では子ども達や保護者、地域住民から廃止計画の見直しを求める声相次ぎました。

児童館は杉並区が誇る子ども達の拠点であり、地域の子育てネットワークの事務局機能を果たしてきました。地域住民や児童・保護者から杉並区の児童館を守って欲しいという声が広がっています。

杉並区は区内41館の児童館を全館廃止する計画を進めています。既に昨年度末までで12館が廃止されました。

## 児童館の存続を求め論戦

児童館は地域における子ども達の重要な居場所であり、地域の子育て拠点です。区立施設再編整備計画の見直しでは、児童館の廃止計画を撤回し、児童館を存続すべきです。また、再編整備計画にも示されていない西荻北・善福寺の両児童館の廃止も中止すべきです。

現在、区立施設再編整備計画の見直しが行なわれており、2021年度中には、2期計画案が策定され、住民説明会やパブリックコメントが実施される見通しです。2022年4月1日には、2期計画が開始されます。

## 再編整備計画見直し中 来年度から2期計画開始

| 児童館施設 (当初41館) | 廃止 | 施設再編後は・・・         |
|---------------|----|-------------------|
| 乳幼児(親子)の居場所   | →  | 子ども子育てプラザ(14館)へ   |
| 小学生の居場所       | →  | 小学校内での放課後等居場所事業へ  |
| 中高生の居場所       | →  | 新たな中高生の居場所を検討(未定) |
| 学童クラブ         | →  | 小学校での整備、児童館施設転用等  |

### 問題点は？

- 児童館41館は全廃し、14館の「子ども子育てプラザ」となるため、施設数としては3分の1に減少。プラザは、乳幼児親子向け施設となる。
- 小学生の居場所は、小学校内での放課後等居場所事業となることで、児童館で実施していた過ごし方が制限される(他世代との交流、児童館施設特有の遊び、おやつやゲーム持ち込み、土日の利用、お泊りキャンプ等々。放課後等居場所事業は、時間や場所の制約が多い。利用者団体協議会との競合や校庭開放の廃止等も。)
- 不登校などの子ども居場所も喪失する。
- 児童館を拠点とした地域の子育てネットワーク機能が縮小する。
- 学童クラブの小学校移転について、移転と共に民間委託が進められ、150人、200人と大規模化。委託により職員の異動・離職の多さ、経験年数の低下等も。
- 中高生の居場所は、児童館廃止で居場所自体が減少・喪失する。 etc

私の代表質問で「住民合意も無く進めるべきではない」と区長に迫りましたが、区長は「概ね住民の理解は得ている」と住民の声を無視する姿勢を示しました。一方、区議会には善福寺児童館廃止計画の見直しを求める署名が500筆以上提出されています。

# 展示機能を拡充し、観覧を促す取り組みの強化を

## 杉並区は他区に比べ 展示機能が不十分

第一回定例会では、党区議団は社会教育活動の充実について質問しました。

杉並区には、ゆかりのある作家・芸術家が多数いますが、記録や作品を展示する施設は、区立郷土博物館本館と分館しかありません。

近隣区では、博物館的な施設の他に、文学館、美術館など複数展開している区も多く、たとえば新宿区は、歴史博物館のほか4つの記念館を持っています。

党区議団は、日本を代表し文学史や美術史に記録されているような作家・芸術家に関する記録・作品は、貴重な文化資源であり、観覧の機会を広げることは、社会教育活動においても、杉並区の魅力を広めるうえでも重要課題と指摘。質疑で区の認識を質したところ、区も、その重要性を認めました。

### 杉並区にゆかりのある作家・芸術家

- 作家：井伏鱒二、太宰治、有吉佐和子
- 歌人：与謝野晶子
- 画家：奥村土牛、中川一政
- 彫刻家：佐藤忠良
- 版画家：棟方志功 など。



区立郷土博物館本館

### 党区議団の3つの提案

- ① 郷土博物館分館について、天沼弁天池公園内に彫刻を移設し、展示スペースを拡大。名称も「分館」ではなく工夫する。
- ② 区立施設、学校、公園等に分散する画家や彫刻家の作品を、誰もが見られるよう工夫を。区ホームページで『杉並美術散歩』など地図にして紹介。
- ③ 芸術家の生家やアトリエ等の所在地に案内プレートを整備、その箇所のマップを作成。

## 充実に向け3つの提案 文化振興条例の制定を！

そのうえで、現状をベースに、観覧の機会を広げるための3つの提案（右）を行ないました。

区は、郷土博物館分館は、公園施設の一部として位置付けられているため、公園機能との関係で様々な制約がある、案内プレート等の表示は、遺族も住んでいる場合は難しい、と答弁しました。

今回の質問にあたり、他区の状況を調査すると、杉並区以外の区では、文化芸術振興のための計画や条例を持っていることが分かりました。

杉並区としても、文化都市にふさわしく、計画や条例を持って社会教育の拡充に取り組むべきと求めました。

### 今週のコマ

#### 子どもの声を聞かない区

杉並区の児童館廃止は子ども達の声を聞くことなく強行しています。私の息子も娘もお世話になっていますが、廃止・機能移転について何も聞かされていません。

議会質疑では子ども声を聞くことを求めましたが、杉並区は頑なに拒絶しました。



善福寺児童館



講師：内田宏明さん  
日本社会事業大学・大学院准教授。社会福祉士。子ども食堂おむすびの会SW

#### 児童館廃止問題を考える学習会開催 児童館の必要性が明らかに！

4月3日、杉並区産業商工会館にて、児童館問題を考える学習会が開催されました。主催は「住民の声を生かす杉並の会」です。私も会からの要請を受け、杉並区の状況を報告しました。

講演者の内田宏明さんは、子どもの権利条約の観点から児童館の重要性や児童の権利保障の必要性を明らかにしました。

杉並区の児童館廃止は、子ども達の意見を聞くことなく進められており、子どもの権利条約にも反する重大な問題です。